

- 問1 1901年に操業を開始した官営八幡製鉄所は、日清戦争の賠償金をもとに建設されました。この製鉄所が置かれ、のちに鉄鋼業を中心とした北九州工業地帯として発展した都道府県はどこですか。 (2022年 滋賀県公立入試 類似)
1. 岡山県 2. 福岡県 3. 広島県 4. 兵庫県
- 問2 沖縄県などが含まれる南西諸島の伝統的な家屋には、敷地の周囲に石垣をめぐらせたり、屋根瓦の継ぎ目を白い漆喰（しっくい）で固めたりする工夫が見られます。このような工夫がなされている理由として、地域の自然環境をふまえて説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
1. 冬に吹きつける冷たい北西の季節風による室温の低下を防ぐため 2. 夏の日差しが非常に強いため、石垣によって日陰を作り、室内の温度上昇を抑えるため 3. 台風の通り道にあたるため、激しい強風によって家屋や屋根瓦が飛ばされるのを防ぐため 4. 火山活動が活発な地域であり、降灰による屋根の崩落や生活への影響を防ぐため
- 問3 九州地方の5県（佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島）における2014年の耕地面積の統計によると、佐賀県や熊本県では田の面積が畑の面積を上回っていますが、鹿児島県では全耕地面積に占める畑地の割合が突出して高くなっています。鹿児島県においてこのように畑作が盛んである主な理由として、土地の性質について説明したものを選びなさい。 (2016年 岡山県公立入試 類似)
1. 筑紫平野のような平坦な低地が広がっており、排水作業を行って広大な畑地を確保しやすかったため。 2. 有明海沿岸の干拓によって得られた土地が、塩分の影響で稲作よりも畑作に適していたため。 3. 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。 4. 山間部を切り開いた棚田が多く作られたが、近年の機械化に伴いその多くが果樹園へと転換されたため。
- 問4 北九州市の産業と人口の推移について述べた次の文のうち、1980年代以降の統計的な傾向を正しく説明しているものはどれですか。 (2015年 兵庫県公立入試 類似)
1. 製造品出荷額に占める鉄鋼業の割合が大幅に減少し、人口も減少傾向にある 2. 人口は1980年以降も一貫して増加し続け、鉄鋼業の出荷額も伸び続けている 3. 製造品出荷額において機械工業が消滅したため、急激な人口増加が起きた 4. 再開発によって鉄鋼業が復活し、製造品出荷額が1980年以前の水準を超えた
- 問5 九州地方の各県の産業について述べた次の説明のうち、宮崎県と福岡県の特徴を正しく組み合わせたものはどれですか。 (2023年 三重県公立入試 類似)
1. 宮崎県と福岡県はともに農業産出額のうち米の割合が最も高く、工業については佐賀県の出荷額が九州で最大である。 2. 宮崎県は農業産出額において畜産の占める割合が非常に高く、福岡県は九州地方で最大の工業出荷額を誇っている。 3. 宮崎県は平野部を中心に稲作が盛んで米の産出額が九州で最も多く、福岡県は畜産が県内の農業の大部分を占めている。 4. 宮崎県は工業出荷額が九州地方の中で最大規模であり、福岡県は農業産出額において米の産出額が畜産を上回っている。
- 問6 九州地方の中央部に位置する熊本県には、阿蘇くじゅう国立公園に指定されている地域があります。この地域にある阿蘇山に見られる、火山の噴火によって形成された世界最大級の大きなくぼ地を何と呼びますか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
1. シラス台地 2. 三角州 3. カルデラ 4. 盆地
- 問7 九州地方の自然環境とそれを利用した産業について述べた文として、正しいものを次の中から選びなさい。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
1. 明治時代に官営の八幡製鉄所が福岡市に建設されたことで、周辺の火山から産出される鉄鉱石を利用した重化学工業が発展した。 2. 九州南部に広がるシラス台地は、火山灰が降り積もってきた水持ちの良い地質であるため、古くから大規模な稲作地帯となっている。 3. 阿蘇山やくじゅう連山などの活火山が多い地理的条件を活かし、大分県などを中心に地熱エネルギーを利用した発電が盛んに行われている。 4. かつて石炭産業で栄えた筑豊地域では、エネルギー革命による需要の変化に伴い、火山の地熱を熱源とした繊維工業や食料品工業への転換が進んだ。
- 問8 九州地方において肉用牛の産出額が非常に高い背景には、南九州を中心に広がる地形的要因があります。火山噴出物が積み重なってできたこの台地は、水持ちが悪く稲作に不向きであったため、古くから畜産業や畑作が発展してきました。この台地の名称として適切なものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 根釧台地 2. シラス台地 3. 武蔵野台地 4. 牧之原台地
- 問9 関東地方の卸売市場におけるきゅうりの出荷状況を見ると、福島県産などは夏場に供給のピークを迎えるのに対し、宮崎県産は11月から翌年5月にかけての供給量が多くなっています。宮崎県がこのような出荷時期の調整を行う主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 消費地である関東地方までの輸送コストを、冬場の方が安く抑えられるため 2. 夏場に発生しやすい台風の被害を避けるために、栽培時期を冬に限定しているため 3. 冬の乾燥した気候を利用することで、農業の使用量を抑えた栽培が可能になるため 4. 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため
- 問10 鹿児島県に広く分布するシラス台地において、その自然条件を背景に発展したこの地域の農業の特色として最も適切なものはどれですか。 (2015年 兵庫県公立入試 類似)
1. 一年を通じて温暖な気候を利用して、平坦な地形を活かして、冬でも雪が降らないことを前提とした稲の二期作が行われている。 2. 土地が低く水がたまりやすいため、大規模な排水設備を整えることで、日本有数の米どころとして水田単作地帯となった。 3. 地盤が非常に強固で肥沃な土壌であるため、重機を用いた大規模な小麦栽培と、大都市向けの近郊農業が中心となっている。 4. 火山灰が堆積した地層は水持ちが悪いため、稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、および肉用牛などの畜産が発展した。
- 問11 九州地方の産業統計において、金属製品の出荷額が5,000億円を超え、さらに観光やビジネスに伴う宿泊旅行者数が年間350万人を上回るなど、製造業とサービス業の両面で中心的な役割を果たしている県はどこですか。 (2021年 佐賀県公立入試 類似)
1. 宮崎県 2. 鹿児島県 3. 福岡県 4. 佐賀県
- 問12 宮崎市などの九州地方太平洋側において、夏から秋にかけての降水量が福岡市などの日本海側と比べて著しく多くなる背景として、適切な理由の組み合わせはどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)
1. 対馬海流の影響、南西から吹く乾燥した季節風、およびシベリア高気圧の発達 2. リマン海流の影響、日本海側から山を越えて吹き下ろす乾いた風、および移動性高気圧の通過 3. 寒流である親潮の影響、北西からの冷たい季節風、および梅雨前線の長期停滞 4. 暖流である黒潮の影響、南東からの湿った季節風、および台風の通り道にあたること

答え合わせ・解説

問1	答え 2 福岡県	日清戦争で得た賠償金をもとに、筑豊炭田の石炭と中国大陆から輸入する鉄鉱石の利用に便利な福岡県北部に官営八幡製鉄所が建設されました。これが日本の重工業化をけん引し、北九州工業地帯へと発展しました。
問2	答え 3 台風の通り道にあたるため、激しい強風によって家屋や屋根瓦が飛ばされるのを防ぐため	南西諸島は地理的に「台風之道」とも呼ばれる進路上に位置しており、毎年のように強い暴風雨に見舞われます。そのため、民家の周囲に防風壁としての石垣を築いたり、重い漆喰で屋根瓦を固定したりすることで、強風による被害を最小限に抑える建築様式が発達しました。選択肢にある積雪や火山灰への対策は、他の地域（豪雪地帯や火山周辺）で見られる工夫です。
問3	答え 3 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。	鹿児島県から宮崎県にかけての九州南部には、過去の火山活動による噴出物が厚く堆積した「シラス台地」が広がっています。この土地は水はけが良すぎて水持ちが悪いため、大規模な水田を作ることが困難でした。そのため、古くから稲作ではなくサツマイモや茶などの畑作、あるいは広大な土地を利用した畜産が発展してきました。これに対し、佐賀県などの平野部では水田率が高い傾向にあります。
問4	答え 1 製造品出荷額に占める鉄鋼業の割合が大幅に減少し、人口も減少傾向にある	北九州市の統計を見ると、1980年をピークに人口は減少に転じています。産業面では、かつて圧倒的なシェアを誇った鉄鋼業の製造品出荷額が大幅に減少する一方で、自動車産業などの機械工業が一定の割合を占めるようになり、産業の主役が交代している様子が見えます。これは日本の多くの地方都市が直面している、産業構造の転換と人口減少という共通の課題を反映しています。
問5	答え 2 宮崎県は農業産出額において畜産の占める割合が非常に高く、福岡県は九州地方で最大の工業出荷額を誇っている。	九州地方南部では、シラス台地などの地形的条件を活かした畑作や畜産が発展しており、特に宮崎県は肉用牛、豚、鶏などの畜産業が農業産出額の多くを占めているのが特徴です。一方、九州地方北部の福岡県は、北九州工業地帯やその周辺の自動車産業などの集積により、九州で最も大きな工業出荷額を記録しています。佐賀県は九州の中では比較的、農業産出額に占める米の割合が高いという特徴がありますが、工業出荷額が最大なのは福岡県です。
問6	答え 3 カルデラ	阿蘇山は、大規模な噴火によって地表が陥没してできた「カルデラ」を持つことで世界的に知られています。この地形は熊本県の象徴的な景観の一つであり、カルデラの内部には草原が広がり、人々の生活圏や農地も存在しています。
問7	答え 3 阿蘇山やくじゅう連山などの活火山が多い地理的条件を活かし、大分県などを中心に地熱エネルギーを利用した発電が盛んに行われている。	九州地方は阿蘇山や桜島などの活火山が多く、火山活動による熱エネルギーが豊富なため、大分県の八丁原発所に代表される地熱発電が盛んです。選択肢にあるシラス台地は水持ちが悪いため稲作には適さず、サツマイモなどの畑作や畜産が行われています。また、官営八幡製鉄所が建設されたのは福岡市ではなく現在の北九州市であり、筑豊炭田の石炭を利用していました。筑豊地域におけるエネルギー革命後の産業転換は、主に自動車産業の誘致などであり、地熱を利用した工業転換という記述は誤りです。
問8	答え 2 シラス台地	鹿児島県から宮崎県にかけて広がるシラス台地は、火山の噴出物（火山灰など）で構成されています。水はけが良すぎて水田に適さなかったため、肉用牛や豚、鶏などの畜産や、サツマイモなどの畑作が盛んになりました。ちなみに根釧台地は北海道の酪農地帯、牧之原台地は静岡県産の茶の産地です。
問9	答え 4 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため	農産物は市場に出回る量（供給量）が少ない時期ほど、価格が高くなる傾向があります。宮崎県では、冬でも暖かい気候や施設園芸の技術を活用し、多くの地域が栽培できない冬から春にきゅうりを出荷することで、競争を避け、農家の収益を高める工夫をしています。これを促成栽培と呼び、地理的な利点と市場経済の仕組みを組み合わせた農業経営の一環です。
問10	答え 4 火山灰が堆積した地層は水持ちが悪いため、稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、および肉用牛などの畜産が発展した。	シラス台地は火山噴出物からなる地層で、水が地下に浸透しやすく、水田に必要な水を保持しにくいという課題がありました。この不利な土地条件を克服するため、水分が少なくても育つサツマイモや茶の栽培、さらに広大な台地を活かして豚、鶏、肉用牛を育てる畜産業がこの地域の主要な産業として確立されました。
問11	答え 3 福岡県	九州地方北部に位置するこの県は、北九州工業地帯を擁しており、古くから金属工業や機械工業が発展してきました。また、九州最大の都市である福岡市を中心に、商業やサービス業、交通網が高度に発達しているため、ビジネスや観光目的の宿泊旅行者数が他県に比べて圧倒的に多いという特徴があります。
問12	答え 4 暖流である黒潮の影響、南東からの湿った季節風、および台風の通り道にあたること	九州南部の太平洋側で降水量が多くなる要因は、大きく分けて3つあります。1つ目は、付近を流れる暖流の黒潮が水蒸気を供給すること。2つ目は、夏に太平洋高気圧から吹き込む湿った南東の季節風が、九州山地などにぶつかって上昇気流を発生させること。3つ目は、夏から秋にかけて台風が接近・上陸しやすく、短期間に記録的な豪雨をもたらすことです。これらが重なるため、福岡市などの北部よりも降水量が非常に多くなります。